



FAS 住まい新聞

発行責任者
(株)福地建装

北斗市中野通 324
0138-73-5558

～断熱・気密はしっかりやるか、やらないか～

家の中途半端な断熱は家を腐らす

グラスウール断熱材は、ウールに含んだ空気を乾燥させたまま静止させる事で断熱効果を発揮いたします。床下とか壁の中、押入れの壁の中に入れられたグラスウールが、いつまでも乾燥したままになっていると誰が断言出来るのでしょうか。

壁の中のグラスウールが内壁にぴったりとくっついていなければ、グラスウールを真ん中にして、壁の内側と外側に対流が発生し、断熱効果が激減します。50ミリとか75ミリのグラスウール断熱材を充填する場合、この断熱材が壁中で内壁材に引っ付くように施工する事が前提です。ところが現実的に内壁にぴったり引っ付くような施工を行う事など殆ど出来ないのです。つまり、壁の中の空隙の全てをグラスウールで埋め尽くす事でしか本当の断熱効果を生み出さないと云えるでしょう。

中途半端な断熱材の充填は壁の中に低温部分が出来易く、そこに水蒸気が凝縮するため、その水分がグラスウールに吸着されて垂れ下がり、無残な状況になり易いのです。湿ったグラスウールには普及菌が発生しやすく、木材を腐らせたり、建材にカビが出来やすく、またカビの胞子が浮遊して住む人にも影響を与える場合があります。中途半端なグラスウール断熱なら、むしろ何もやらない方が湿気の抱える場所を作らないだけ得策とも言えるのです。

気密性能はビニールハウスの原理

真冬に暖かい家をつくるためには、徹底した気密性能を備えるべきです。真冬のビニールハウスは氷点下の畑の中でも10度以上もの気温をキープする事が出来ます。厚さ0.5ミリ程度のビニールには殆ど断熱性能はありませんが、気密性能だけで気温をキープしています。

ビニールハウスの中は上下左右の気温がほぼ同じ程度で推移しますが、これは気密性能によるものです。

隙間があれば温かい空気が逃げて言った分だけ、冷たい空気が入って来て床の部分に停滞します。我々は冷たい空気と同じ場所に居る訳ですから、暖かい家づくりには、ビニールハウスのような、気密性能が不可欠なのです。しかし、ビニールハウスで夏を過ごす事など出来ず、夏場の暑さや日射熱を防ぐには、グラスウールなどの断熱材がどうしても必要になります。

低気密・高断熱など成立しない

高温多湿の日本気候風土の中での家づくりは、自然通気と自然透湿が求められ、開放の文化が根付いて参りました。高気密住宅と聞いただけで、鬱陶しさを感じてしまいます。そこで出たのが低気密、高断熱と言うキャッチコピーです。実際には、いくら断熱材を厚くしても隙間があれば家の中は暖かくなりません。高断熱も、気密性能の裏付けがあってこそ、寒さや暑さから家の中を快適な空間に維持出来るのです。つまり、気密性能と断熱性能は完全にフィットすべきものなのです。

北海道など、氷点下20度以下になる地域では、このような完全な気密、断熱の性能が求められ、これを怠れば膨大な暖房費がかかり、暖房をしなければ凍え死ぬ事もあり得ます。一方、温暖地では家に、断熱性能や気密性能がなくとも暖房で賄えます。しかし、家の気密断熱の性能が寒冷地よりはるかに劣っているため、寒冷地以上の暖房費を使用しているのが実状です。

部分冷暖房、使用時冷暖房で大丈夫な家屋などでは、むしろ気密や断熱なを一切、行わないもの選択肢のひとつでしょう。高気密、高断熱は行えば行うほど、他にしなければいけない要素が山積してきます。

夏の知恵袋

飲み物を急速に冷やすテクニク

さわやかな季節とはいえ、動くと汗ばんでくるのが5月だよね。そんな季節、急な来客でビールやジュースでもてなしたいのに「生ぬるい」という困った経験はない？

そんな時、時間をかけずに冷やす方法があるんだよ。まず、飲み物の容器にきれいな濡れ布巾を巻いて、冷蔵庫に入れるんだ。これだけでも驚くほど早く冷えるんだけど、これを冷凍庫にいれるともっと急速に冷えるんだよ。ただ、冷凍庫の場合は、凍る可能性があるから長時間の入れっぱなしには気をつけてね。

